

平成22年度 老人保健事業推進費等補助金
老人保健健康増進等事業

地域高齢者の生きがいと健康づくりモデル構築に向けた
自助・互助機能活用とソーシャルキャピタル指標開発の研究事業報告書

平成23（2011）年3月



社会福祉法人東北福祉会
認知症介護研究・研修仙台センター

平成22年老人保健健康増進等事業

地域高齢者の生きがいと健康づくりモデル構築に向けた自助・互助機能活用と ソーシャルキャピタル指標開発にかかわる研究事業報告書

目次

はじめに

第1章 研究概要

矢吹 知之 1

1. 問題の所在
2. 研究の目的
3. 研究概要と実施した調査・介入
 - 1) 鶴ヶ谷地区まちづくりと健康意識等に関する住民アンケート
 - 2) 地域包括支援センターの地域連携体制づくりに関する調査
 - 3) 加齢と健康に関する調査
 - 4) 地域包括支援センターにおける地域づくりとソーシャルキャピタル醸成に向けた取り組み事例の収集
4. 研究の成果

第2章 地域包括ケアと住民連携構築に向けた自助機能・互助機能～地域包括ケアとソーシャルキャピタル～

矢吹 知之 7

はじめに

1. 地域包括ケア体制構築に向けた地域包括支援センターからのアプローチ
 - 1) 地域包括ケアシステムの内容
2. 地域包括ケア実現のための地域包括支援センターの役割
 - 1) 地域包括ケアシステムと地域づくり
 - 2) 報告書で示された地域包括支援センターの具体的な役割
3. 地域包括支援センターとソーシャルキャピタル
 - 1) ソーシャルキャピタルの概念整理
 - 2) ソーシャルキャピタルとは何か？
4. ソーシャルキャピタルの地域包括支援センター業務での活用方法
 - 1) 地域包括支援センター業務の効率化
 - 2) 地域包括支援センター業務としての活用方法
 - 3) 一般高齢者施策や特定高齢者施策での具体的活用方法の例

第3章 地域包括支援センターの地域連携体制づくりに関する調査

小野寺 敦志 久松 信夫 …………… 17

1. 目的
2. 方法
 - 1) 調査項目
 - 2) 調査手続き
 - 3) 調査協力者
3. 実態調査の結果
 - 1) 基礎集計結果
 - 2) 地域特性から見た結果：人口区分による比較
 - 3) 地域特性から見た結果：高齢化率による比較
4. アウトリーチ実践に関する結果
 - 1) アウトリーチ活動を支える役割
 - 2) アウトリーチ活動を支える条件
 - 3) 職種間によるアウトリーチ活動の役割評価
 - 4) 職種間によるアウトリーチ活動の条件評価
 - 5) アウトリーチ活動の役割に対する因子分析
 - 6) アウトリーチ活動の条件に対する因子分析
5. まとめ
 - 1) 地域特性を中心にした結果のまとめ
 - 2) 地域包括支援センターのアウトリーチ活動の結果を中心としたまとめ
 - 3) 全体のまとめ

第4章 地域包括支援センター特性と地域の自助、互助活動分析

矢吹 知之 …………… 43

1. 目的
2. 方法
 - 1) 分析するデータと対象
 - 2) 分析方法
3. 結果 1 地域の自助と互助の地域特性活動分析
 - 1) 地域包括支援センターから見た住民の自助役割（度数分布）
 - 2) 地域包括支援センターが住民に期待する自助活動の地域特性
 - 3) 地域包括支援センターの自助機能向上のために実施している活動（度数分布）
 - 4) 地域包括支援センターが自助機能向上のために実施している活動の地域特性
 - 5) 地域包括支援センターから見た住民の互助の役割（度数分布）
 - 6) 地域包括支援センターが住民に期待する互助機能向上のための活動の地域特性
 - 7) 地域包括支援センターの互助機能向上のために実施している活動（度数分布）
 - 8) 地域包括支援センターが互助機能向上のために実施している活動の地域特性
4. 結果 2 地域の Strength（強み）、Weakness（弱み）と高齢化率の関連
 - 1) 地域のアセスメントとSWOT分析
 - 2) 地域の強味と高齢化率

3) 地域の弱みと高齢化率

5. まとめ

- 1) 住民が自助としてできること
- 2) 地域包括支援センターが自助のためにできること
- 3) 住民が互助機能向上のためにできること
- 4) 地域包括支援センターが互助機能向上のためにできること
- 5) 高齢化率による計画策定の必要性

第5章 社会参加活動が健康に及ぼす影響

加藤 伸司 93

1. 目的

2. 方法

3. 結果

- 1) 調査結果の概要
- 2) ソーシャルキャピタルとの関係
- 3) 社会活動との関係

4. まとめ

第6章 ソーシャルキャピタル指標に基づくモデル的介入と事例収集

矢吹 知之 137

はじめに

1. ソーシャルキャピタル醸成を目指したモデル地域での介入
 - 1) 介入目的
 - 2) 対象地域の属性と介入方法
 - 3) モデル地域介入の結果
 - 4) 健康づくり講座企画・実践（モデル介入2）
 - 5) ソーシャルキャピタルの視点から見たモデル介入の整理
2. 自助機能向上・互助機能を活用した住民連携に向けた事例収集
 - 1) 事例収集の目的
 - 2) 方法
3. 事例収集の結果
4. 試行的モデル実施と事例
 - 1) 事例収集
 - 2) ヒアリング調査

第7章 ソーシャルキャピタルの視点からみた地域住民連携活動の計画・評価方法
高橋 満 171

はじめに

1. 地域住民連携活動の計画と評価—ロジック・モデルの適用の試み—
 - 1) 計画・評価と市民参加
 - 2) ロジック・モデルとは何か—〈変化の理論〉とプログラム・モデル
2. 地域住民連携活動実践の検証と改善
 - 1) SMART基準
 - 2) FIT基準
 - 3) 実践の評価をどうデザインするか
3. まとめ

第8章 地域包括支援センターにおけるソーシャルキャピタルに関する指標の開発
矢吹 知之 189

はじめに

1. ソーシャルキャピタルの測定方法の整理
 - 1) パットナムが用いた指標
 - 2) 内閣府が用いた指標
 - 3) AGES（近藤ら）が用いた指標
2. 地域包括支援センターにおけるソーシャルキャピタル醸成自己評価指標の開発
 - 1) 目的
 - 2) 方法
 - 3) 結果
3. ソーシャルキャピタル醸成自己評価尺度の活用と課題
 - 1) 尺度活用方法
 - 2) 各因子ごとの得点の解釈
 - 3) ソーシャルキャピタル醸成自己評価尺度の課題

第9章 ソーシャルキャピタル指標に基づく基礎調査
矢吹 知之 201

1. 調査目的
2. 調査方法
 - 1) 調査期間
 - 2) 調査対象者
 - 3) 配布回収
 - 4) 質問項目
 - 3) 分析内容
3. 調査におけるソーシャルキャピタル計測のための指標作成と指数
 - 1) ソーシャルキャピタル計測のための指標作成

2) ソーシャルキャピタル指数の算出方法

4. 結果

- 1) 基礎集計結果
- 2) 付き合い・交流（ネットワーク）指標
- 3) 信頼指標
- 4) 社会参加（互酬性の規範）指標
- 5) ソーシャルキャピタル指数の算出
- 6) 性別とソーシャルキャピタル指数
- 7) 年齢とソーシャルキャピタル指数
- 8) 職業とソーシャルキャピタル指標
- 9) 世帯構成とソーシャルキャピタル指標
- 10) 居住年数とソーシャルキャピタル
- 11) 行政実施事業参加とソーシャルキャピタル

5. まとめ

- 1) ソーシャルキャピタル指標の内閣府との比較
- 2) ソーシャルキャピタル指数の算出
- 3) 鶴ヶ谷地区のソーシャルキャピタル

■■資料■■

・調査票

地域包括支援センター対象調査:地域連携体制づくりに関する調査

鶴ヶ谷地区対象調査:まちづくりと健康意識等に関する住民調査

・鶴ヶ谷調査 単純集計結果

委員名簿

(敬称略・順不同)

高橋 満	東北大学大学院教育学研究科 教授*
中澤 伸	特別養護老人ホームラポール三ツ沢 副総合施設長
小野寺 敦志	国際医療福祉大学大学院臨床心理学専攻 准教授*
福嶋 美奈子	社会福祉法人平生町社会福祉協議会 事務局長 (平成23年3月31日)
土岐 浩一郎	社会福祉法人弘前愛成園立特別養護老人ホーム弘前静光園 施設長
芳谷 伸二	財団法人広島県健康福祉センター研修相談課 長寿社会推進部次長兼研修相談課長
久松 信夫	桜美林大学健康福祉学群 准教授*
青木 忠明	株式会社ヒューサイ 代表取締役*
中島 康晴	特定非営利活動法人地域の絆 代表理事*
加藤 伸司	認知症介護研究・研修仙台センター センター長
阿部 哲也	認知症介護研究・研修仙台センター 研究・研修部長
矢吹 知之	認知症介護研究・研修仙台センター 主任研修研究員
吉川 悠貴	認知症介護研究・研修仙台センター 主任研究員

(*は調査ワーキンググループ委員も兼ねる)

協力団体

気仙沼市大島老人クラブ連合会 (会長 千葉 勝衛)

仙台市宮城野区まちづくり推進課 (後藤 千鶴子)

はじめに

平成 23 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災では、これまで私たちが経験したことのない大地震と津波がこの仙台、東北地方、東日本を襲いました。

築いてきた家や地域は瞬く間に崩壊し、多くの尊い人命が失われました。

地震は山を崩し地を裂き建物を引き込み、津波は町、地域全体を飲み込んでいきました。ほんのわずかな時間の出来事でした。

皮肉にも地域の温かみ、人のありがたさ、家族の大切さを改めて感じざるを得ない出来事でした。今も不気味に余震が続き、そのたびに隣にいる人、つながりのある人の安否を気にします。

ライフラインは壊滅的被害を受け、近年、新たなネットワークとしての役割を担っていた携帯電話、メール、パソコンは使えず、何の情報を得ることすらできませんでした。

そんな中、求めたもの、そして希望は、人のつながりでした。

近所の人のごくわずかな情報と励まし、助け合いが多くの人を救いました。

地域の〈信頼〉、お互いさまの心（互酬性の規範）、人と人のつながり（ネットワーク）をこんなに強く感じたことはありません。

人のつながりや信頼、互酬性の規範は感じるものです。普段は見えにくい地域のつながりや助け合いを作っていくことが、わが国が今後目指すべき地域包括ケア体制構築には重要な課題となっていきます。

本研究は、こうした人とのつながりや信頼、互酬性の規範を数量化し、可視化したうえで、地域の高齢者の健康の関連性を明らかにしました。そのために「ソーシャルキャピタル」の概念を用いて、高齢者の健康や生きがいがいづくりにかかわる支援策を地域における効果的な推進や高齢者の生きがいと健康づくりについて、モデル事業と調査をもとに検討を進めました。

本研究の成果として、全国 16 地域の地域包括支援センターに協力をいただき、地域の互助や自助能力を高めていくための具体的な取り組みを紹介した事例集と地域住民を対象としたパンフレットを作成しました。これにより、地域住民と関連する機関が自助、互助、共助、公助の役割を担い地域包括ケア体制構築推進に役立てていただけることを祈念しております。

認知症介護研究・研修仙台センター
センター長 加藤伸司

